



京都府立医科大学附属病院広報誌

かもがわ

vol.
46
2026.8



CONTENTS

- ▶ 02 特集
チーム医療で支える無痛分娩
- ▶ 06 健康・医療の豆知識
- ▶ 08 オープンホスピタル 2026 開催します！
ご寄附のご案内

理 念

世界トップレベルの医療を地域へ

基本方針

高度で安全、患者さんにとって安心な医療の提供に努めます
患者さんの権利を尊重し、患者さん主体の医療を行います
すべてのスタッフは互いに連携し、チーム医療を進めます
新しい医療を開発するとともに、未来を担う医療人を育成します
京都府における基幹病院として、地域医療に貢献します

近年、選択される方が増えている「無痛分娩」。「お産の痛みが和らぐ」「産後の回復が早い」など様々なメリットがある一方で、赤ちゃんへの影響やリスクについても正しく知っておくことが大切です。

当院での取り組みや、具体的な流れについて詳しくご紹介します。

無痛分娩の5つのメリット



1

お産の痛みを和らげる

麻酔によって陣痛や出産の痛みを大きく軽減します。

2

産後の回復がスムーズ

妊婦さんの体力的・精神的な疲労が少なく、産後の回復が早いとされています。

3

産後の痛みを和らげる

会陰切開や裂傷の縫合など、出産後に必要な処置の痛みも和らげることができます。

4

もしもの帝王切開にも迅速対応

急遽、帝王切開が必要となった場合でも、すでに背中に入っているカテーテルからスムーズに麻酔の調整が可能です。

5

持病がある方も安心

心疾患、精神疾患、妊娠高血圧症候群などの持病がある妊婦さんにおいて、安全な出産方法として推奨されています。

■ 府立医大病院の無痛分娩の流れ

分娩予定日の前日 入院・事前準備

- ・入院後、子宮口を柔らかくする処置を行います。

分娩当日の朝 分娩スタート

- ・麻酔科により、硬膜外麻酔のために背中に細い管をいれます
- ・点滴を開始し、陣痛を促進する薬（陣痛促進剤）を使用します。

❗ 注意：当日の朝は固形物は食べないでください（水・お茶、スポーツドリンク、果肉なしジュースは摂取可能です）。

陣痛開始～麻酔の開始

- ・痛み止めが必要と感じるようになった段階で、「硬膜外麻酔」を開始します。
- ・同時に、血圧計や酸素モニター、赤ちゃんの心拍を観察する機器を装着します。

💡 ポイント：トイレに立つ必要がないよう、尿道に管（カテーテル）を入れることもあります。

分娩中 ベッド上での過ごし方

- ・麻酔の効果により足に力が入りにくくなるため、ベッドの上で過ごしていただきます。
- ・同じ向きで横を向いていると麻酔の効果が片方に偏るため、定期的に体勢をかえていただきます。

出産・その後

- ・産後の処置が終了し、母体の状態を確認しながら、背中の麻酔の管を抜去します。



無痛分娩の「ギモン・費用・手続き」 ～安心して出産を迎えるために、知っておきたいこと～

気になるギモン、すっきり解消 FAQ！

読者の不安を解消するため、当院でお渡ししているパンフレット内の「赤ちゃんへの影響」「副作用・合併症」から、特に重要・頻度の高いものをFAQ形式でお知らせします。

Q 赤ちゃんへの影響や、お産の進み方に変化はありますか？

A 麻酔の影響で、分娩の進行がゆっくりになったり、お母さんのいきむ力が弱くなったりすることがあります。その場合は薬を調節していきみやすくしますが、赤ちゃんを引っ張って出やすくする「器械分娩」が必要となることがあります。また、一時的な母体の血圧低下により、一時的に赤ちゃんに影響がでることがありますが、**これによって帝王切開が必要となる割合が増加することはない**といわれています。

Q 麻酔による副作用にはどのようなものがありますか？

A 主に以下のような症状が見られることがありますが、いずれも適切な処置や時間経過で回復します。

- ・ **血圧低下**：麻酔で血管が広がると血圧が下がりがやすくなります。
- ・ **発熱**：痛みが和らぐことで熱を逃がしにくくなり、体温が上昇することがあります。
- ・ **かゆみ**：痛み止めのお薬の影響で、かゆみがでることがあります。

※このほか、薬が誤って血管やくも膜下に入った場合、めまいや手のしびれ等が一時的に出ることがありますが、多くの場合は適切に対応し、薬の効果が切れると元に戻ります。

Q 「まれな合併症」についても教えてください。

A 極めてまれではありますが、神経の圧迫による足のしびれ（腰痛・神経障害）や、カテーテル挿入部からの感染、アレルギー反応（アナフィラキシー）などの報告があります。当院では、事前の検査（血液が固まりにくい状態でないかの確認）や入念な消毒を行い、万全の医療体制のもとで安全第一に実施しています。

受診までのステップ & 費用

入院までに必要なこと

【予定日の2か月前】：麻酔科外来の受診日程を調整します。

【入院時】：無痛分娩の同意書を持参してください。

※麻酔を始めるまでであればキャンセル可能ですが、自然分娩から無痛分娩への当日変更はできません（完全予約制）。

※入院に必要な物品は、通常の分娩と同じです。

費用について

・無痛分娩にかかる費用は自費負担（当院では一律 149,500 円）となります。

・料金は**麻酔を開始した段階から発生**します。事前の説明や外来受診のあとに通常の自然分娩を選択された場合は、無痛分娩の費用はかかりません。

もっと詳しく知りたい方は

日本産科麻酔学会のホームページに、分かりやすい説明ページが設けられています。QRコードよりご覧いただけます。



チーム医療の現場から

産婦人科医×
麻酔科医×
助産師×
小児科医

座談会！

当院では、2026年4月から無痛分娩を本格的にスタートしました。「無痛分娩ってどんなお産？」「赤ちゃんへの影響は？」など、気になる疑問がたくさんありますよね。今回は、妊婦のみなさんの不安や疑問にお答えするため、産婦人科医・麻酔科医・助産師・小児科医のメンバーで集まって、語り合ってみました！

Q. 無痛分娩とは、どのようなお産ですか？

田中医師（産婦人科）：無痛分娩は、麻酔を使って陣痛の痛みを和らげながら出産する方法です。痛みの緩和方法はいくつかありますが、現在もっとも広く行われている「硬膜外麻酔」という方法を当院でも採用しています。完全に痛みがなくなるわけではありませんが、痛みを大きく軽減できるので、お産の進行をリラックスして感じていただくことができますよ。



Q. 麻酔をかけると、意識や赤ちゃんへの影響はどうなりますか？

矢持医師（麻酔科）：硬膜外麻酔は、背中中の硬膜外腔という場所に細い管（カテーテル）を入れて、そこから麻酔のお薬（局所麻酔薬や鎮痛薬）を投与する方法です。陣痛の痛みを脳に伝える神経のはたらきを抑えることで、痛みを効果的に和らげます。麻酔とはいっても、硬膜外麻酔はお

母さんの意識に影響しない方法ですので、赤ちゃんのご対面も通常通り、感動的なお誕生の瞬間を味わっていただけます。麻酔薬を使っても赤ちゃんは大丈夫なのかとご心配されることがあるかもしれませんが、お薬が赤ちゃんへ届く量はごくわずかで、適切な管理のもとでは大きな影響はないとされていますので、その点をご安心いただければと思います。



Q. 無痛分娩ならではのメリットって何でしょう？

安田助産師：一番のメリットは、やっぱり痛みへの不安が減って、落ち着いた優しい気持ちでお産に臨めることです。「自分らしい素敵なお産ができた」と、笑顔で振り返るお母さんも多いんですよ。それに、体力の消耗がとても少ないんです！出産後すぐに赤ちゃんを抱っこしたり（早期母子接触）、授乳に取り組みやすく、赤ちゃんとの最初の時間を穏やかにスタートできるのも嬉しいポイントですね。お産の感じ方や進み方には個人差があります。私たちは妊

婦さん一人ひとりの思いや価値観を尊重し、ご本人やご家族が納得し、ご自身に合った分娩方法を選択できるよう支援しています。



田中医師（産婦人科）：医学的にも、痛みのストレスによる急

激な血圧上昇を抑えられるという利点があります。妊娠高血圧症候群など、お母さんの体への負担をできるだけ減らしたい場合にも、とても有効な選択肢になります。

Q. 逆に、注意すべきデメリットや副作用はありますか？

田中医師（産婦人科）：無痛分娩は安全性の高い方法ですが、いくつか注意点もあります。麻酔によっては「いきみ感覚」が少し弱くなるため、お産に時間がかかることがあります。そのため、赤ちゃんを吸引して引き出すお手伝い（吸引分娩など）の頻度がやや高くなる傾向があります。

矢持医師（麻酔科）：硬膜外麻酔では、人によっては血圧の低下や、体のかゆみ、吐き気といった副作用がみられることがあります。また、非常にまれではありますが、頭痛や神経の損傷、出血や感染などの合併症が起こるリスクがありますので、お産の間だけでなく、赤ちゃんが生まれたあとも継続して観察をしていきます。万が一、このような副作用や合併症が起こった場合でもすぐに適切な対応ができるよう、私たち麻酔科医も一緒にお産を見守り、安全で質の高い麻酔を提供できるよう常に心がけています。

Q. 「安全なお産」のために、みなさんが心掛けていることは？

安田助産師：私たち助産師は、お母さんと赤ちゃんの状態をずっと側で見守っています。血圧や陣痛の様子、赤ちゃんの心拍などを継続的にチェックしながら、安心してお産ができるよう環境づくりを支援しています。何より、お母さん一人ひとりの思いや気持ちに寄り添い、不安や疑問に丁寧に対応できるよう、安心して出産に臨める環境づくりとコミュニケーションを大切にしています。

田中医師（産婦人科）：当院では無痛分娩に関するガイドラインを遵守し、安全管理のためのマニュアルを整備しています。分娩中は産婦人科医・麻酔科医・助産師が密にワ

ンチームで連携し、万が一のトラブルにも迅速に対応できる体制を整えています。そして、当院の一番の強みは、「普段からの他科との垣根のない、スムーズな連携体制」です。大学病院という総合的な環境を活かし、緊急帝王切開やICUでの集中治療管理など、万が一お母さんの体に急変があったときでも、24時間すべての診療科がバックアップできる体制を整えています。

瑞木医師（小児科・NICU）：お母さんのサポートが産婦人科なら、生まれてくる赤ちゃんのサポートは私たち小児科の役目です。当院では、無痛分娩のお産には全例、赤ちゃんの救命処置（NCPR）の専門ライセンスを持つ小児科医が必ずお部屋に待機します。もしも生まれてきた赤ちゃんに少しでも心配なことがあれば、専門性の高いNICU（新生児集中治療室）で、24時間いつでもバトンタッチしてケアできる体制を整えています。ですからお母さんは、赤ちゃんのことは私たちにすべて任せて、心配せず、安心してリラックスしてお産に臨んでくださいね。



最後に、みなさんへメッセージ

田中医師（産婦人科）：「どんな方法で赤ちゃんを産みたいか」を選ぶことは、お母さんの大切な権利です。当院では、これまでの自然分娩に加えて、無痛分娩という新しい選択肢も笑顔でお迎えできるようになりました。「お産が怖くて眠れない…」「痛みに耐えられるか心配」という方は、どうぞお気軽に、何でも相談してください。みなさんが安心して新しい家族を迎えられるよう、スタッフ全員で温かくサポートいたします！





薬剤部 連載企画
vol. 41

くすりの豆知識

「妊娠と薬外来」をご存じですか？



「妊娠に気付かずお薬を飲んでしまったけど大丈夫かな？」「持病のお薬を飲み続けながら妊娠しても問題ないかな？」

このような不安や悩みを抱えていませんか？

妊娠中のお薬の影響については、多くの研究が行われていますが、薬によっては十分な情報がない場合もあります。そのため、妊娠を希望している方や妊娠中の方の中には、お薬との付き合い方に悩む方も少なくありません。

当院では、「妊娠と薬情報センター」の拠点病院として、『妊娠と薬外来』を設置しています。専門の医師と薬剤師が、国内外の医療情報や研究データをもとに、1人ひとりの状況に合わせた相談をお受けしています。

○ 主な相談内容

- ・ 現在お使いのお薬が、妊娠中のお母さんやおなかの赤ちゃんに与える影響について
- ・ 妊娠に気付く前に服用したお薬の影響について
- ・ 持病の治療を続けながら妊娠を希望する場合のお薬の相談について

※妊娠を希望している方や、授乳中のお薬に関する相談にも対応しています。

※受診方法などの詳細は、当院ホームページまたは担当診療科へお問い合わせください。



府立医大病院
薬剤部
薬剤師外来



臨床工学部 連載企画
vol. 10

医療機器の豆知識

「痛みをコントロールして、安心できる分娩をサポートします」

当院では今年4月より無痛分娩を本格的にスタートしました。その痛みの管理に活躍するのが、エイミー PCA ポンプです。

PCAとは「自己調整鎮痛法」のことで、医師があらかじめ設定した安全な範囲内で、患者さん自身が痛みに合わせて鎮痛剤の量を調節できる仕組みです。手術後のケアにも広く活用されており、「痛みを我慢しすぎてしまう」という従来の悩みを解消します。

本機器は小型・軽量設計で持ち運びも簡単です。鎮痛剤を投与した記録も自動で残るため、安全管理の面でも安心です。

臨床工学部では、このような鎮痛関連機器の管理・

サポートも担っています。機器についてご不明な点は、お気軽に担当看護師へお声がけください。



画像提供／大研医器株式会社



臨床検査部 連載企画
vol. 37

臨床検査の豆知識

「安全な分娩のための検査体制」



当院では **24 時間体制** で夜間休日でも迅速な検査が可能な体制をとっています。

安全な分娩のために必要な検査が実施可能です。

輸血検査

分娩時や手術中の万が一の出血に備え、24 時間体制で輸血検査をおこないます。血液型の検査も行っています。



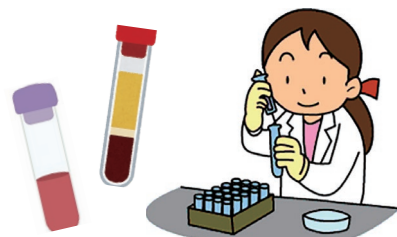
微生物迅速検査

特定のウイルスや細菌に感染していないか検査します。



生化学・免疫検査

血糖値、タンパク質や脂質など様々な成分を分析し、迅速に報告します。



血液検査

赤血球、白血球などの数を分析したり、分娩中に血が止まりにくくなっていないかなど血液の異常がないか検査をします。

貧血や感染症、血糖異常の早期発見など極めて重要な検査を実施しています



栄養管理部 連載企画
vol. 29

栄養の豆知識

「無理なく、しっかり食べましょう！」

産後の回復のためには主食・主菜・副菜を組み合わせた栄養バランスのよい食事を摂ることが基本ですが、出産後は赤ちゃん中心の忙しい毎日になり、お母さんの食事は後回しになりがちです。

お惣菜や冷凍食品、レトルト食品、缶詰などを利用することも工夫のひとつ！無理なく栄養を摂ることを心がけましょう。今回は缶詰と冷凍野菜を使い一品で栄養バランスのよい簡単レシピをご紹介します！

さばの三色そばろ丼

<材料> (1人分)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ★ ごはん…200 g | ★ 冷凍ほうれん草…50 g |
| ★ サバ缶(水煮)…1/2 缶 | ★ 卵…1 個 |
| (サバの身のみ 70 g) | ★ しょうゆ…小さじ 1/2 |
| ★ しょうゆ…小さじ 1 | ★ みりん…小さじ 1/2 |
| ★ みりん…小さじ 1 | ★ オリーブオイル…小さじ 1 |
| | ★ ミニトマト(別皿)…3 個 |

<作り方>

- ① サバ缶は水気を切って A を加え、ほぐしながら炒る。
- ② 冷凍ほうれん草は電子レンジで解凍する。
- ③ 溶き卵に B を加えて混ぜ、オリーブオイルをひき、炒る。
- ④ ごはんの上に①②③を盛り付ける。



ワンポイント

しょうゆ・みりん→市販のめんつゆに変えても簡単においしくできます！



<栄養量> エネルギー：605 kcal たんぱく質：25.0 g 脂質：16.6 g 炭水化物：86.8 g 食塩相当量：2.3 g

★ おしらせ

オープンホスピタル2026

～with 子ども職場参観DAY～を開催します！

10/31
土

10:00
↓
15:00



地域の皆さんに府立医大附属病院を身近に感じてもらい、児童・生徒・学生の皆さんが将来、医療従事者を目指すきっかけになるよう、毎年「オープンホスピタル」を開催しています。当日は、病院で働くさまざまな職種の紹介のほか、医療機器の操作体験・展示、施設見学などを予定しています。「病院のスタッフはどんな仕事をしているの?」「どんな機器を使っているの?」「これってなんだろう?」といった疑問にお答えします! 普段はなかなか見ることのできない病院や医療の世界をのぞいてみませんか?

寄 附 の ご 案 内

未来の医療と、患者さんの笑顔のために

京都府立医科大学附属病院では、より質の高い医療の提供や療養環境の充実、医療従事者の育成等のため、企業や個人の皆さま方からの寄附金を受け入れています。

皆さまからいただいた寄附金は、寄附の趣旨に沿って、病院に必要な医療機器・消耗品の購入、サービスの向上、院内環境の整備のために大切に使用させていただきます。

寄附金の主な活用例



救急車の購入

地域の救急医療体制維持のため、患者さんを他院に搬送するために活用されています。



生命維持管理装置(血液浄化装置(左)、人工呼吸器(右))の導入・更新

患者さんの命をつなぐ、高度な医療機器を常に最新の状態で維持するために活用させていただきます。

税制上の優遇措置について

当院への寄附金は、確定申告により所得税や住民税の税制上の優遇措置(寄附金控除)を受けることができます。



詳しい情報はこちら

■ 申込み・お問合せ

京都府立医科大学附属病院募金事務局 【受付時間】平日9:00～17:00

個人の方 Tel:075-251-5246(医療サービス課) 法人の方 Tel:075-251-5233(病院管理課)

